

JADIE第1回全国大会の報告

全国大会実行委員長 千里金蘭大学教授 高橋 参吉

1. はじめに

日本情報教育開発協議会（JADIE）は、高等学校教科「情報」を中心としたわが国の情報教育の推進と充実した研究活動の環境整備を図るために、昨年、設立された団体です。初等・中等教育、高等教育、企業内教育、生涯教育において情報教育に関わる人材の交流と情報交換、ならびに、これらの教育に関するコンテンツ開発、人材育成等の支援を行う活動をしてきました。

このたび、「情報教育の新たな地平を創る」をテーマに、文部科学省をはじめとして、多くの教育委員会のご後援をいただき、平成17年6月24日～25日に、大阪府吹田市の千里金蘭大学にて第1回の全国大会を開催しました。

この大会では、文部科学省初等中等教育局の沓掛誠情報教育調査官、JADIE会長である岡本敏雄電気通信大学大学院教授の講演をはじめ、公開討論会、分科会、ワークショップ、企業展示などの

催しがあり、多数の方々が参加されました。

この大会の参加者は、6月24日が約70名、25日が約210名（大阪会場）であり、その内訳は、参加者の70パーセント強が教員、もしくは教育関係者でした（付録参照）。

2. 講演会

大会2日目（25日）の午後に、千里金蘭大学川島慶雄学長の挨拶のあと、電気通信大学大学院の岡本敏雄教授（JADIE会長）による基調講演と、文部科学省初等中等教育局参事官付の沓掛誠情報教育調査官による特別講演が行われました。

岡本教授の講演テーマは、「世界の中の日本の情報教育～何が問題で、何をしなければならないか～」でした。「情報教育」という言葉は、非常に多義的であり、学校現場や一般社会で、「情報教育」を正確に捉えているとは思えない、しかし、情報化社会、知識社会という展開の中で、「情報教育」は、識字率に匹敵するものになるのではな



会場の千里金蘭大学



JADIE岡本会長の講演

いかと強調されました。高等学校教科「情報」では、高学年になるほど、情報科学・工学の必要最低限を教えるべきではないか、先生方とJADIEで「情報教育」のミニマムエッセンシャルズとは何かについて議論していきたいと述べられました。さらに、世界の動向について、インターネット普及率および学校におけるPC、インターネット接続率の観点から述べられました。最後に、「情報教育」と学力低下について、広義の「情報教育」は、当然学力向上につながるなど学力問題にも触れられました。

沓掛誠情報教育調査官は、「これからの教育について」というテーマで話されました。最初に、情報教育の位置づけに関して、平成14年9月に出された文部科学省の新「情報教育の手引き」の本から、「教育の情報化」の目的について述べられました。情報教育の目的は、あくまでも情報活用能力の育成にあり、ITを活用した各教科等の指導の究極の目的は、各教科等の目的の達成です。IT活用は「手段」に過ぎず、それのみでは「情報教育」ではないことを強調されました。

次に、「初等中等教育における教育の情報化に関する検討会」（昨年12月設置）において、学校教育における教育の情報化の今後の姿に関して、議論されている内容などを紹介されました。また、学習指導要領の改訂に向けて、中央教育審議会での検討され、近いうちに教育課程部に情報教育の内容を扱う専門部会が設置されることになるとの

ことでした。

なお、講演内容は、概ね、以下の資料として公開されています。

- 1) 文部科学省：初等中等教育における教育の情報化に関する検討会（第1回）配布資料4「情報教育」の内容の充実について（議論用ペーパー）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chou sa/shotou/027/shiryo/05012101/003.htm

- 2) 文部科学省：初等中等教育における教育の情報化に関する検討会（第6回）参考資料4、情報教育の指導内容の体系化のための指導項目（概ねの整理）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chou sa/shotou/027/shiryo/05062201/s003.htm

なお、講演会の様子は電子会議システムを利用して、九州副会場（九州大学）、北海道副会場（北海道大学）へ配信されました。



北海道副会場での講演の様子



沓掛情報調査官の講演

3. 公開討論会

大会1日目（24日）の公開討論会（テーマ：今後の情報教育のあり方を考える）では、約70名の参加があり、北海道大学の布施先生と九州工業大学の西野先生の情報教育に関するアンケート調査報告のあと、高等学校の「情報」担当者の先生から発言があり、2時間という短い時間でしたが、活発な討論会になりました。

資料として、次の2点が配布されました。



公開討論会の会場

- 1) 布施, 野坂, 岡部: 教科「情報」は難しい? —高等学校普通教科「情報」実施初年度アンケート調査報告—, 日本情報教育開発協議会
- 2) アンケート調査報告, 日本情報教育開発協議会カリキュラム委員会

なお, 1) は, 教科「情報」について, 全国の高等学校にアンケート調査(回答数約800校)を行い, 本としてまとめられたものです。2) は, JADIEカリキュラム委員会で開催されたアンケートで, 回答数は, 小学校45校, 中学校26校, 高等学校34校です。

4. 研究発表

大会2日目(25日)には, 講演会, 研究発表(分科会・ワークショップ), 展示会などが行われ, 約210名の方々が参加されました。研究発表は, 午前, 午後とも4会場で, 次のようなセッションで行われました。

- ・小・中学校(1): 情報モラル, カリキュラム
 - ・小・中学校(2): コンテンツ開発, e-Learning
 - ・高校(1)(遠隔会場): コンテンツ開発, 教育方法
 - ・高校(2): コンテンツ開発, 教育方法
 - ・高校・高専・大学: コンテンツ開発, 教育方法, 教科教育法
 - ・大学等: 教育方法, e-Learning
 - ・協賛企業による発表
 - ・遠隔発表(遠隔会場): コンテンツ開発, 教育方法
- 小・中学校のセッションでは, 「小・中一貫教

育の取り組み～情報教育～」というテーマで, 文部科学省の研究開発指定校をうけている大阪府寝屋川市立三井小学校の古谷先生の小・中学校の9ヶ年の情報教育カリキュラムの開発の実践例など, 数件の研究発表が行われました。



研究発表の様子(1)

また, 情報モラルや情報倫理に関しても, 小学校から大学までいくつかの発表がありました。情報モラル教育の実践経験のある富士常葉大学の森本先生からは「既習者を対象とした情報モラルの授業実践について」の研究発表がありました。



研究発表の様子(2)

一方, 大学における情報教育の研究発表もいくつかありました。平成18年度の入試科目として「情報」を取り上げる大学が出てきていますが, 専修大学の竹村先生からは「大学入試における教

科「情報」の導入と課題」の発表がありました。高等学校と大学との情報教育の連続性や接続性が今後も課題になってくると考えられます。



研究発表の様子（3）

遠隔会場では、新しい試みとして、大阪会場（千里金蘭大学）、九州副会場（九州大学）、北海道副会場（北海道大学）の3会場を結んで、電子会議システム（VQSコラボ、（株）オサムインビジョンテクノロジー）を利用した、遠隔発表が行われました。

遠隔会場の午前中の発表は、すべて大阪会場からでしたが、電子会議システムを利用して、九州副会場にも配信されました。大阪会場からの発表では、明浄学院高校の今井先生から「25回授業公開キャラバンを実施して」など、高等学校の実践事例6件が行われました。



遠隔会場での研究発表の様子（1）

遠隔会場の午後の発表では、大阪会場、九州副会場、北海道副会場の3つを結んで、電子会議システムを利用した発表が行われました。九州副会場、北海道副会場から中学・高校の先生の4件の発表がありました。

九州副会場の福岡県立嘉穂総合高等学校の倉光先生の「情報を基調とする高校および情報専門学科の開設」、大阪会場の兵庫県立西宮今津高等学校の佐藤先生の「モデリングツールを利用したシミュレーションの授業実践」のように、高等学校の普通教科だけでなく、専門教科「情報」に関係する発表も行われました。



遠隔会場での研究発表の様子（2）
（九州副会場の発表を映した大阪会場の様子）



遠隔会場での研究発表の様子（3）
（大阪会場の電子会議システムの画面）

このように、小学校から高等学校、大学までさまざまな校種の先生方が集まりました。そして、

5社の協賛企業からの研究発表もあり、全体では47件の研究発表がありました。

5. 展示および企業の研究発表

展示会場では、日本データパシフィック(株)、(株)アルファシステムズ、(株)プロアシスト、トーエイ工業(株)、(株)内田洋行、カノープス(株)、NECフィールディング(株)、コクヨS&T(株)、実教出版(株)および(株)北大路書房の10社の企業の商品や出版物の展示が行われました。展示および広告にご協力いただいた企業等は、20社にもなりました。

6. おわりに

6月としては記録的な猛暑の中、第1回全国大会は予想を上回る参加者がありました。そのためか、懇親会にも予想を超える80名以上の参加があり、昼間の暑い一日を忘れ、JADIEへの熱い期待を語りつつ、2日間の幕を閉じました。

最後に、ご後援いただいた関係省庁ならびに教育委員会、ご協賛いただいた学会など諸団体、広告・展示にご協力いただいた企業関係者、そして、暑い中、参加いただいた発表者ならびに参加者の方々に、心より感謝します。

また、九州副会場、北海道副会場の設定のためにご協力いただいた九州大学ならびに北海道大学の情報基盤センターの先生方、特定非営利活動法人学習開発研究所の先生方に感謝いたします。

なお、JADIEの今後の活動については、<http://www.fest.or.jp/jadie/>に掲載する予定です。

付録 参加者の内訳

参加者の内訳は、図1(a)に示すとおりですが、参加者の7割強が教員、もしくは教育関係者(教育委員会関係者を含む)でした。また、教員の内訳は、小学校(10%)、中学校(2%)、高等学校(40%)、養護学校(1%)、短大・大学・大学院(42%)となっています。

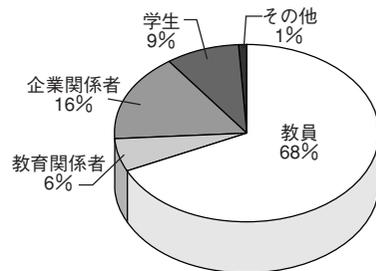


図1(a) 参加者の内訳

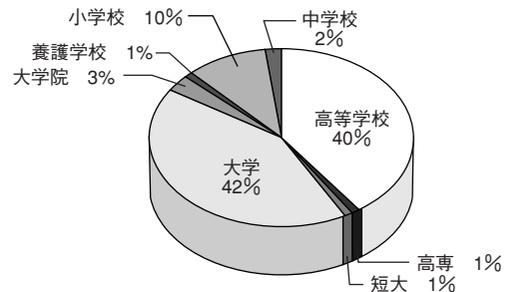


図1(b) 教員の内訳